



代表取締役  
安藤 規雅氏

### 活用した支援

- ・コーディネーター相談
- ・専門家派遣事業 等

### 課題

- ・数値に基づいた経営管理体制の構築
- ・コスト管理や収益性の向上
- ・経営に関する全体的な支援

### 解決策

- ・課題解決に最適な専門家の紹介
- ・管理会計導入のための専門家支援
- ・各種申請サポート 等

### 得られた効果

- ・損益算出の迅速化
- ・製造工程の見直し
- ・数値管理に対する意識の高まり

## 専門家派遣で数値管理を改善！管理会計の導入で将来の事業戦略に生かす。

株式会社フジ給食は、千葉県内を中心に弁当製造および給食業務委託事業を手掛け、1972年の創業以来地域の食の提供を担ってきました。現在は、1日約3,000食の

弁当と、数百件の給食を提供しています。原料価格の高騰や入札競争の激化などによる利益率の低下を受け、抜本的な経営改革の必要性を感じていました。

### 支援のきっかけと決め手は？

千葉市産業振興財団（以下、財団という）とは先代からの付き合いがあり、定期的に経営相談をしていました。弁当製造業全体に言えることですが、当社の近年の経営状況はあまり芳しくなく、過去最高益の時と比べると現在の売上高は半減している状況です。利益の出る体質に改善するには、まずは現状の把握が必要不可欠ですが、

当社では今まで感覚的な経営を行っており、管理会計を導入していませんでした。そんな時、財団のコーディネーターに近況報告をする機会があり、「食品業界に長く携わっていた専門家がいるので、専門家派遣を利用してみませんか？」と提案を受け、専門家の力を借りて、根本的な部分を見直していくことになったのです。

## どのような取り組みを行いましたか？また、取り組みの進め方を教えてください。

最初に専門家のヒアリングがあり、まずは当社の二大事業である「仕出し弁当事業」と「給食業務委託事業」の各事業ごとの数値を出すことを目標としました。現在出せている数字を見てもらって、切り分けられるところは切り分け、仕出し弁当事業と給食委託事業が一緒になっているところは、「何分の

一が仕出し弁当事業ですね。」と細かいデータを出していただきました。最終的にはザックリとしたデータから数値を算出したとき、栄養士が計算していた原価と数十パーセントも違っているとわかれた時はさすがにびっくりしました。あとは、工場のオペレーションの改善提案も行ってくださいました。専門家の方は実際に稼働して

いる工場に何時間もいらして、「ここまでやってくれるのか！」と驚きました。最終的に、工程の分析をしていただき、非効率な部分を特定することができました。



## 取り組みの成果を教えてください。

### 見えてきた課題。一つずつ対処し、未来を目指していく。

#### －専門家派遣で数値化されたデータの活用方法は？

専門家の派遣日数は15日間以内という規定があるので、大枠となる数値を出してもらった後はコーディネーターの力を借りつつ、自分たちで管理をする必要があります。少しずつ数値化を行い、損益

を出すのに1年くらいかかっていたところを、現在は1カ月半くらいまで追いつくことが可能になりました。また、経営を圧迫していた派遣スタッフや業務委託スタッフの見直しを行い、月数百万円のコストを削減することもできました。

オペレーションの部分は、従業員のスキルアップが必要という結果だったのですが、当社が直面する「従業員の高齢化」という課題が浮き彫りになったと感じています。現在、積極的に求人を出すなど、人材の獲得に向けて力を入れています。

## 今後の事業展開や財団に期待すること

#### －今後の事業展開について

数値化により現状を客観視し、基盤を整え、次世代を担う人材に選んでもらえる会社にし、新規事業等も展開する…先は長いですが、今回、専門家派遣により第一歩を踏み出せたと感じています。私たちにできることは、今までお世話になった方や従業員、そしてお客様がいる限りは、事業の存続を目指してできることをするだけです。

#### －財団に期待すること

経営に関するワンストップ支援は引き続き活用させていただければと思っています。行政の知見やネットワークと、企業の経営ノウハウや効率性を融合できる第三セクターならではの立場を活用した、財団だからこそできることがもっと認知されて、千葉市の事業者がどんどん活用するようになって欲しいですね。



－ありがとうございました。